

1993年度（第30回）秩父宮記念学術賞推薦要項

趣旨：秩父宮記念学術賞は、秩父宮殿下が、財団法人日本学術振興会総裁として、我が国の学術振興のために多大の尽力をされた御事蹟を記念して昭和38年度に制定されたもので、秩父宮殿下が格別に深い関心を寄せられた「山」に関する科学で顕著な業績を挙げた者に授与される。受賞者の選考および授賞は日本学術振興会が行う。

授賞の対象：「山」に関する個人またはグループによる学術上顕著な研究調査の業績で、次の各条件を満たすものを対象とする。

① 山に関する学術的研究調査であること。

② 山における自らの実地研究調査活動を中心とするものであること。

③ 新しい知見またはデータの収集等により、新領域の開拓または研究の進展に貢献すると認められるものであること。

④ 学術文献として公刊されているものであること。

（現在印刷中等のもので、1993年12月末までに必ず公刊されるものを含む）

推薦の締切期日：1993年11月1日（月）

（気象学会提出締切期日：10月19日）

編集後記：IAMAP が終わり、8月に入っても何日も涼しい日が続き、集中豪雨や台風の被害のニュースが大きく報道されている。気象の問題の社会的重要性をますます認識させられる時代である。

さて、私事で恐縮ですが、編集委員を辞めることになりました。よく知らない分野の論文を読んだり、いろいろな方のレフリーの仕方を知ったり、大変でしたがいい勉強になりました。論文のレフリーで、時間がかかってお叱りを受けたり、著者とレフリーの板挟みになったりもしました。ご迷惑をお掛けした方にはこの場を借りてお詫びします。

最初は「宇宙から見た気象」の担当者の一人となり、原稿集めのために、多くの方にお願いの電話を掛けました。また、春・秋の学会の大会でも、予稿集でめばしそうな発表を調べておき、その発表を聞き、初めての方にもその場で原稿をお願いしたりもし、多くの方

を知ることにもなりました。その他、様々な原稿をいろいろな方にお願ひしました。多くの方々が快く引き受けてくださり、大変ありがとうございました。

「天気」の読み方も、この間にずいぶん変わったはずですが、今でも忙しくなると最初に見なくなるのは「天気」のような気がします。新しい企画もいろいろと出ておもしろくなっていますが、もっともっと目を通したくなるようにするために、気象に関係あることなら何でも投稿できるようなそんな感じを作ればと思います。そのためにも、今後も会員の皆さんの投稿がより活発になることを期待し、また、自身も一会員として努力したいと思っています。最後に、もう一言、編集委員の皆さん、これからもがんばって下さい。ありがとうございました。

（中村晃三）